MY LIFE
住まいの しあわせのカタチ
MY HOME

余 貴美子

俳優

楽しく幸せでいられるように
やさしい言葉と笑い声を
家に染み込ませていきたいです

60歳からの住宅ローン【リ・バース60】の
イメージキャラクターとしてもおなじみ。
どんな役にも見事に染まり、厚みと説得力のある演技で
見る人に忘れがたい印象を残す余 貴美子さん。
その魅力の源には、変化を楽しむ柔らかい心があるようです。

Profile

余 貴美子（よ きみこ）

劇団「東京壱組」と並行して映画、TVドラマ、CMへと活動の場を広げる。2008年度毎日映画コンクール田中絹代賞を受賞したほか、日本アカデミー賞最優秀助演女優賞を3度受賞するなど受賞歴多数。19年には紫綬褒章を受章した。近年の主な出演作にドラマ『今度生まれたら』（2022・NHKBSプレミアム）、『女系家族』（2021・EX）、『ドリームチーム』（2021・NHK）、映画『冬薔薇』『ノイズ』（2022）、『ホテルローヤル』『ステップ』『AI崩壊』（2020）、『めんたいぴりり パンジーの花』（2023）、舞台『hana -1970、コザが燃えた日-』（2022）、『家政婦のミタゾノ』（2022）、Netflix『サンクチュアリ - 聖域 - 』など。NHK「ファミリーヒストリー」では長年ナレーターを務めるなど声の出演も多く、活動は多岐に渡る。

多様性があって、おもしろいまち 今も変わらず「横浜ラブ」です

横浜の繁華街、観光地のど真ん中で育ちました。一軒家に、両親と妹、祖父母、叔母やいとこも一緒に暮らす大家族。リビングにみんなが集まって1台のテレビを見るみたいな、まさに“昭和の家族”の生活でしたね。やたらと人が遊びに来る家で、商売もしていたので、本当にいろんな方が出入りしていました。多様な人々と出会い、関係性を持てる機会があった。今の自分にもつながる、いい子ども時代だったなと思います。

家の前には原っぱがあって、近所の子たちがいつもそこでボール遊びをしていて。飛んでくるボールでしょっちゅう窓ガラスが割れたりね（笑）、そういう景色も懐かしい。その頃の家の匂いとか、空気の香りとか、今も鮮明によみがえります。

50歳で結婚して、東京に住むようになりましたが、実家に母がいますので行ったり来たり。横浜には、商店街を中心に建築家とかデザイナーとかもメンバーに加わって、まちづくりの活動を積極的にやっているグループが多くて、そこに私もちょっと参加させていただいています。横浜ラブ！な感じですかね。みなさん定期的に集まって、もっともっと住みやすいまちにしようといつも思案されているところが好きですね。だから、私もいつまでも離れずに。足しげく通って、横浜の人だと言い張っております（笑）。

俳優と美術セットデザイナーの夫婦の“拠点”でもある、進行形の家

私の夫は美術セットデザイナーなので、建築とかデザインというものにすごくこだわりがあって。とはいえ住んでいるのは建売住宅で、最初はとくに自分たちの好みの家ではなかったんですけどね。ちょっとずつ手を入れて、今も“日々変化している家”といったところです。

仕事的にも日常と非日常が曖昧で、家の中も、セットデザイナーが手掛ける美術セットみたいな感じですし、私もそこで楽器を弾いたり、ときには突拍子もない台詞を覚えたり。そんなことをやっている二人の家ですから、住まうというより“根城にしている”とでも言いましょうか（笑）。そうしたなかで「ただいま」「おかえりなさい」と言い合えるような匂いを染み付けている、進行形の家です。

仕事で出合って、今もお稽古を続けているのは津軽三味線と能。和の音や和の所作に惹かれるのは、母が日本舞踊をやっていて、子どもの頃から和の世界が身近にあったからかもしれません。能は謡（うたい／能の声楽部分）も仕舞（しまい／袴姿で謡に合わせて舞う演目）も両方やるんですけど、日本のリズムって不思議でね、ワンツースリーではカウントがとれない。その不思議な感覚がつかみたくて。自宅の地下室に籠って、日々お勉強しております。

私が大きい声や音を出すのと、夫が映像の仕事をするのにプロジェクターを使える空間が必要ということで、今の家は地下室ありきで探したんですよ。そもそも狭いところとか暗いところが好きなもので（笑）。夫にしても私にしても、第六感みたいな部分で仕事しているところがあって、想像力とかインスピレーションとかを養うためにも、地下っていう空間は大事なんです。

将来の安心を見据えたリフォームも 少しずつ進めています

昔はお部屋がいっぱいあることが憧れだったし、流行りでもあったんですけど、今は逆に、壁を取り払って広くするようなリフォームも多いですよね。わが家もそうです。数年前にリフォームしましたが、いつもいる場所は壁を取って広げて、食べるのもくつろぐのも、台詞を覚えるのも、全部一つの部屋でできるように。あと、夫が奥行の見せ方にこだわって、目の錯覚を利用するために壁の色を変えたりとか。その考える工程とか作業も楽しみながら、自分たちの好きにやっています。私が仕事で何日か旅に行って、帰ってくると、家がちょっと変わっていたりするんですよ（笑）。それで楽しければ、幸せ

MY LIFE 住まいの しあわせのカタチ MY HOME

であればいいかなと思います。

歳を重ねるとともに、見えるところより見えないところでの安心感を求めるようにもなりました。天候や自然環境も変わってきていますから、補強のために壁に筋交いや鉄骨を入れたりといったこともしましたね。産業廃棄物が出ないような材料を選び、捨てるときにも責任を持てるような家具だとか、そういうことも考えながらのリフォームです。予算もあるのでいろいろ大変。だからいっぺんにやるのではなく、少しずつ進めています。

人生100年時代、家も住まい方も、いつでも変えられる勇気は必要じゃないかと思うんです。あまり執着しないで、いつでも動ける自分でいたい。そのためには、まず健康でいないといけないし、住むということについても真面目に考えていないと。この歳になってもまだ、知らなかった、こっちのほうがいいじゃない！っていうようなこと、いっぱいありますからね。

健康に長生きしたいというのも、能のお稽古を続けている理由の一つです。700年以上続く芸能ですから、その動作は、人間の骨格上、実に理にかなっている。そういうのが理屈でわかってくると、歩くことや姿勢についてすごく考えるようになるんですよ。80代、90代の諸先輩方が舞う姿も堂々としていらっしゃるし、すっくと立って、助走をつけずにジャンプできたり。あの身体能力をみると、生きるうえで正しい姿勢がいかに大事かと思います。私も、ちゃんと腰に体重を乗せて、まっすぐ立てるようになりました。

人に対してやさしくありたい。それが、今の私の“欲”です

これからの人生、やはり人にやさしく、人に対して寛容な心でいたい。そういう状態の自分でありたいなと思います。住むっていうことに対しても、生きるっていうことに対しても、ガツガツするのではなく、幸せを感じられるように。人間本来のやさしい気持ちが欲しいですね。お仕事でいろんな方に会って、触発されて、そういう心持ちになっています。

いただく役も最近どんどん変わってきて。昔はけっこう過激な役が多かったのですけど、やっぱり言霊ってあるんでしょうね。役を引きずらない私でも、台詞の練習で乱暴な言葉をずっと言っていると、本当にそんな女になってくる気がするんですよ（笑）。反対に、やさしいお母さん役とかの台詞を言っているときは、気持ちが安らいで、いい人になっていると思う。だから家でも、いっぱいいいことを言ったり笑ったりね。やさしい言葉を染み込ませれば、本当に空気がよくなるんじゃないかなって。人が発する言葉にはそんな力があると、仕事柄ですけど信じているんです。やさしい言葉で、たくさんおしゃべりできる家だったらいいなと思いますね。

インタビュー動画は住宅金融支援機構（JHF）YouTube公式チャンネルでご覧いただけます
https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi